

学外研修報告

2019 年度 分子科学研究所 機器・分析技術研究会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるために出席した。また研究会終了後本研究会の開催・運用を決定する地域代表者会議への出席と機器・分析センター協議会技術職員会議の進行及び協議会本会での報告内容の協議を行った。

2. 期間・場所

期間：2019 年 8 月 29 日～30 日

場所：分子科学研究所 岡崎コンファレンスセンター

3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員 200 名以上

4. 研修内容

まずは特別講演を分子科学研究所長・川合眞紀先生より「技術開発と先端研究」と題して講演が行われた。川合先生はさまざまな職場を経験し配属先では常に新たなテーマに取り組まれ成果を上げられた。特に表面化学反応の研究成果が評価され平成 29 年度紫綬褒章を受けるなど国内外で活躍されている。企画講演昨年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震が発生した際に北海道全体を停電が襲ったブラックアウトについて北海道大学・大久保様より当時の様子や災害発生時からその後の大学の様子と対応について続いてトークセッション 1 で「技術職員のキャリアパス」が行われ登壇者からの意見と共に会場からも PC 等により意見を表示させて議論された。2 日目にもトークセッション「5 大機器分析分野の最先端分析と維持管理の技術継承」が行われ、私も登壇し NMR について紹介した。両日のトークセッション後は 62 件のポスター発表に移り発表者や参加者との内容の濃い討論が行われた。研究会終了後は研究会の運用を支援する地域代表者会議に出席した。

5. まとめと感想

当研究会は本年度の開催で 25 回目を数え四半世紀にわたり機器・分析にかかわる教育研究機関等の技術職員の発表と交流の場として開催されてきた。長い歴史の中で法人化等の環境の変化にも柔軟に対応し安全衛生関連の発表なども盛り込み多くの技術職員の技術向上や業務に対する意欲向上に寄与していると感じている。今後も継続して研究会の開催を支援し自らの技術向上にも役立てたいと思う。